

編集にあたって

この報告書は、独立行政法人都市再生機構（以下、『UR 都市機構』）における平成 21 年度の業務に関する環境配慮の取組について報告するために作成したものです。

本年は、特集のテーマを「低炭素社会に向けた UR 都市機構の取組」及び「生物多様性とまちづくり」とし、低炭素型の都市・地域づくりや生物多様性の保全・再生が進められる中、UR 都市機構の果たすべき役割や取組について取り上げました。また、年次報告では平成 21 年度に話題になった取組について詳細に紹介しています。

環境報告書は、UR 都市機構の幅広い業務と環境との関わりを皆様にできるだけ分かりやすくお伝えすることを意図して毎年作成・公表しているものです。UR 都市機構の総合的な環境への取組についてご理解いただく一助になれば幸いです。

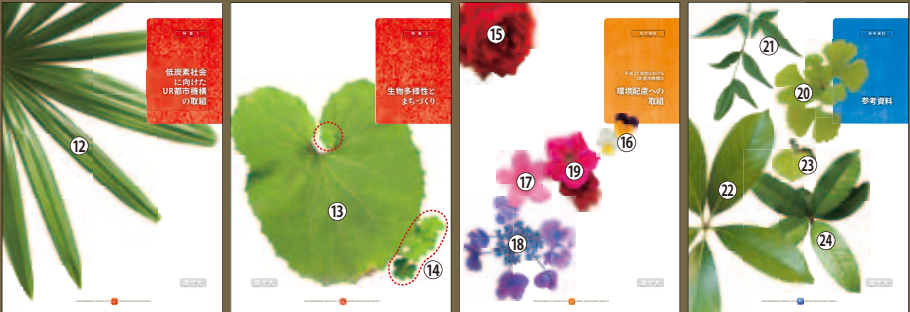
表紙や中扉の生き物の写真は、UR 都市機構の団地や事業地区で撮影されたものです。様々な生き物が生息する豊かな自然と共生するまちづくりを推進していきたいという願いを込めて取り上げました。



掲載リスト



表紙



	名称	団地名・地区名	所在地
表紙	① サルビア	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
	② ドクダミ	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
	③ ヘデラ	シティコート大島	東京都江東区
	④ アリ・虫の死骸	シティコート大島	東京都江東区
	⑤ コナラ	シティコート大島	東京都江東区
	⑥ イロハモミジ	シティコート大島	東京都江東区
	⑦ カボック	アクティ汐留	東京都港区
	⑧ オオヤエクチナシ	アクティ汐留	東京都港区
	⑨ ベチュニア	アクティ汐留	東京都港区
	⑩ シロタエギク	アクティ汐留	東京都港区
扉 (p.5)	⑪ ダルマガエル	伊香立公園	滋賀県大津市
	⑫ カンノンチク	アクティ汐留	東京都港区
扉 (p.15)	⑬ フキ	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
	⑭ カタバミ	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
扉 (p.21)	⑮ バラ	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
	⑯ ビオラ	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
	⑰ サツキ	本郷真砂アーバンハイツ	東京都文京区
	⑱ ガクアジサイ	大島六丁目	東京都江東区
	⑲ ベチュニア	アクティ汐留	東京都港区
扉 (p.53)	⑳ イチョウ	大島六丁目	東京都江東区
	㉑ ナンテン	シティコート大島	東京都江東区
	㉒ マテバシイ	シティコート大島	東京都江東区
	㉓ カヅラ	シティコート大島	東京都江東区
	㉔ キンモクセイ	シティコート大島	東京都江東区
もくじ (p.1)	㉕ シラカシ	シティコート大島	東京都江東区
はじめに (p.2)	㉖ キンシバイ	アクティ汐留	東京都港区

※「⑩ ダルマガエル」以外は、すべて原寸大で掲載しています。



はじめに

ごあいさつ	2
UR 都市機構の業務フィールド	3
機構事業と環境とのかかわり	4
環境配慮方針	4

特集 1 低炭素社会に向けた UR 都市機構の取組

特集 2 生物多様性とまちづくり

年次報告 平成 21 年度における UR 都市機構の環境配慮への取組

1. 環境にやさしいまちや住まいをつくります	
① 都市の自然環境の保全・再生に努めます	22
② まちや住まいの省エネルギー化を進めます	26
③ 資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます	30
④ まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します	34
⑤ 皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます	38
2. 環境に配慮して事業を進めます	
① 環境負荷の少ない事業執行に努めます	42
② 環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます	48

有識者意見 横浜国立大学大学院 教授 佐土原 聡 氏

参考資料

平成 21 年度 年度計画（抜粋）	54
UR 都市機構 地球温暖化対策実行計画（UR-eco プラン 2008）	55
平成 21 年度 主な業務実績	58
「環境報告ガイドライン 2007 年版」対応の記載事項一覧	59
UR 都市機構の環境配慮 50 年の歩み	60

我が国は、京都議定書で温室効果ガスの排出量を、2008 年から 5 年間平均で基準年（1990 年）より 6%削減を約束し、さらに、国際的合意を前提に、2020 年に 25%削減を表明しています。排出削減は困難を伴いますが、持続的発展が可能な社会の実現のためには不可欠です。特にエネルギー消費が多い都市部では低炭素型の都市・地域づくりが求められています。

また、本年は国連が定めた「国際生物多様性年」で、10 月には愛知県名古屋市で生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催されます。豊かな生物多様性を保全し、その恵沢を将来にわたって享受できる社会が求められています。

UR 都市機構は、「まち・住まいづくり」を担う公的機関として、半世紀以上にわたり、安全・安心で快適で美しいまちづくりを進めるとともに、自然環境の保全・再生、資源やエネルギーの有効利用などに先進的に取り組んできました。これまでの環境にやさしいまち・住まいづくりの成果を活かしながら、低炭素社会や生物多様性の保全に向けた取組をより一層進めてまいります。

本報告書は、特集のテーマを「低炭素社会に向けた UR 都市機構の取組」及び「生物多様性とまちづくり」とし、UR 都市機構における地球温暖化対策の進捗状況や生物多様性保全の取組を取りまとめています。また、年次報告では、UR 都市機構が平成 21 年度に実施したまち・住まいづくりにおける環境配慮の取組全般について紹介しています。

UR 都市機構は、地球にやさしいまちづくり、人にやさしい住まいづくりに取り組み、快適で美しい社会をプロデュースしていきたいと考えています。今後とも、皆様からのご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

独立行政法人 都市再生機構

理事長 小川 忠男



UR 都市機構は、半世紀以上にわたり、「人が輝く」まち・住まいづくりを目指し、さまざまな取組を実践してきました。「都市再生」、「住環境」、「郊外環境」、「災害復興」の 4 つのフィールドで、より美しく、安全で快適な都市を目指して、都市に活力を取り戻し、人々が快適に暮らせる居住環境づくりに力を入れています。

都市再生フィールド



晴海アイランド・トリトンスクエア（東京都中央区）

住環境フィールド



経堂赤堤通り（東京都世田谷区）

郊外環境フィールド



港北ニュータウン（神奈川県横浜市）

災害復興フィールド



ACTA 西宮（兵庫県西宮市）

民間事業者や地方公共団体の皆さまと協力し、都市再生を推進します。

大都市や地方都市のさらなる活性化のために、構想企画、諸条件整備等のコーディネート業務や、パートナーとして事業に参画し、民間事業者や地方公共団体の皆さまとの適切な役割分担のもと、より一層都市再生を推進していきます。

ストックの活用と再生。そして適切な維持管理を実施します。

全国に約 76 万戸ある UR 賃貸住宅ストックの地域及び団地ごとの特性に応じた再生・再編を実施します。また、暮らしやすさへの配慮や子育て環境の整備等を行い、安心して暮らせるきめ細かなニーズに応える住宅管理を推進します。

豊かな自然環境と安心・快適な「新・郊外居住」を推進しています。

これまでに約 300 地区のニュータウンの整備を手がけ、国民の居住水準の向上に貢献してきました。「安全・安心」、「環境共生」、「コミュニティ支援」等をテーマに、地域の特性を活かした魅力ある郊外や地方居住の実現を図り（「新・郊外居住」）、事業の早期完了を目指します。

都市の防災機能を強化し、被災地の復興をいち早く支援します。

1995（平成 7）年の阪神・淡路大震災では、被災された方々への復興支援に取り組みました。これを契機に都市の防災性のさらなる向上をめざし、地方公共団体の皆さまとの適切な連携のもと、災害に強いまちづくりを推進しています。

機構事業と環境とのかかわり

UR 都市機構は、これまで半世紀にわたって、身近な自然とのふれあい、資源やエネルギーの有効利用、安全・安心で快適な暮らしなどにおいて、様々な技術開発を行い、魅力的なまちや住まいづくりを進めてきました。身近な生活空間や都市空間の環境づくりを進めることは、わが国の良好な環境の形成と、さらには地球環境問題の改善にも寄与するものと考えています。（詳細は p.60「UR 都市機構の環境配慮 50 年の歩み」）



環境配慮方針

UR 都市機構は、まちや住まいづくりを進めていくにあたり、環境について配慮すべき視点を取りまとめ、「環境配慮方針」として宣言しました。



1. 環境にやさしいまちや住まいをつくります

- ① 都市の自然環境の保全・再生に努めます
- ② まちや住まいの省エネルギー化を進めます
- ③ 資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます
- ④ まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します
- ⑤ 皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます

2. 環境に配慮して事業を進めます

- ① 環境負荷の少ない事業執行に努めます
- ② 環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます